

日吉台地下壕保存の会

会報

第46号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ：白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ：喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

~~~~~  
第6回横浜・川崎平和のための戦争展

日時：1998年7月18～19日（土・日）

場所：横浜駅西口 かながわ県民センター

展示：両日とも10.00～18.00

講演：19日のみ

11.00～12.30 若者による発表

13.30～14.00 戦跡保存全国ネットワーク

沖縄大会参加者の報告

十菱 駿武氏

戦争体験を残す

小島 清文氏

14.00～15.15 慶應義塾と太平洋戦争について

～上原 良司のことなど～

白井 厚氏

ビデオ上映：日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕

なお、上原良司氏の姉妹の方が出席を予定しておられます。

~~~~~  
目次

ページ

お知らせ	1	1998年度予算	5
第6回横浜・川崎平和のための戦争展	2	1998年度活動方針	6
第10回総会の記	3	連合艦隊司令部跡日吉台地下壕の保存をすすめる会会則	7
1997年度活動報告	4	連載日吉台地下壕	
1997年度会計報告	5	当時の関係者の思い出話24	8

第六回 横浜・川崎

平和のための戦争展

運営委員

亀岡 敦子

1998年6月24日 第46号

一九九二年一二月に、川崎市平和館で最初の「平和のための戦争展」を開いた時は、ここまで回を重ねることになりました。想像できませんで

した。川崎・横浜と会場を交互に移した事と、寄り合い世帯の実行委員会で運営にあたった事、何よりもテーマを「私の街から戦争が見える」という点に絞った事などが、継続の理由ではないかと思われます。開催期間も三回目までは、展示場を借りた日数全部を使つたので、平日は入場者が少ないのに、人手は必要と、やりくりばかりが大変でした。

四回目と五回目は土・日・休日だけに限定したので負担も軽く、楽しさだけが残りました。

展示内容は、基本を「日吉台地下壕」「登戸研究所」「蟹ヶ谷通信隊地下壕」に据えていますが、工夫も重ねてきました。特に昨年の特攻隊員上原良司さんの遺品や写真で構成したコーナーは、参加者の中に強く訴えるものがあつたようです。日元の涼しい若者の写真と、深い知性と豊かな人間性に溢れた『所感』の文字は、何万語の説明よりも明白なメッセージを伝えていきます。私達は『上原良司』という慶応で学び、一九四四年一〇月の神宮外苑の学徒出陣雨中の行進に加わり、四五年五月、特攻隊員として知覧から出撃し沖縄で散った若者にスポットをあてる事により、

何千・何万の死んでいった若者の悲しさと虚しさを身近かに引き寄せるこことなつたのです。二人の妹さんや由縁の方々が相集い遺書の朗読に耳を傾けた時、声高に『戦争反対!』を叫ぶより、平和への祈りが満ちたように思われました。

また、いつものように若者による発表も、神奈川大学・

山梨学院大学・慶應大学の各々の学生が、自分の視点から調査研究の成果を発表し、無関心な若者が多いと嘆く大人達に、現代の青年も捨てたものじやないと思わせました。

そして次の世代へ伝える事の責任を痛感しました。

東京芸術座の俳優さんを中心とした朗読劇や憲法を方言で読む、という新しい試みは感動的で涙を浮べる方も多かつたのです。

平和のための戦争展は皆様

に引き寄せるこことなつたのです。二人の妹さんや由縁の方々が相集い遺書の朗読に耳を傾けた時、声高に『戦争反対!』を叫ぶより、平和への祈りが満ちたように思われます。これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展をします。これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示のほか、不戦兵士の会の小島清文氏や慶大名誉教授白井厚氏の講演があり、戦跡保存全国ネットワーク沖縄大会参加者の報告があります。

今年も七月一八、一九日の両日、横浜駅西口近くの「かながわ県民センター」で開催します。

これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展をします。これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示のほか、不戦兵士の会の小島清文氏や慶大名誉教授白井厚氏の講演があり、戦跡保存全国ネットワーク沖縄大会参加者の報告があります。

今年も七月一八、一九日の両日、横浜駅西口近くの「かながわ県民センター」で開催します。

これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展をします。

これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展をします。

これまで通り日吉台、登戸、蟹ヶ谷などに関する展示の外に、上原良司特別展をします。

1997年度活動報告

1997年度は、国内では沖縄県名護市に米軍ヘリポートを建設する計画をめぐって激しい論争が繰り広げられ、住民投票が行なわれました。また、世界では、アメリカのイラク制裁と称して、戦争の瀬戸際まで行きました。いつまでたっても戦争の種は尽きません。私たちの力は、まだ微々たるものですが、その種を摘みとり、平和な社会をつくることを願って活動してきました。

1997年度の活動で特筆すべきことは、長野県松代町で『第一回戦争遺跡保存全国シンポジウム』が開かれ、『戦争遺跡保存全国ネットワーク』が結成され、戦争遺跡保存の運動が全国的に盛り上がってきたことです。横浜でも、赤れんが倉庫に平和資料館を『ピースミュージアムよこはま』実行委員会が、横浜の文化人の呼びかけで結成され、多くの文化人の賛同も得て1万人以上の署名を短期間に集め、横浜市長に『ピースミュージアム』建設の要望書を提出しました。

私たち「日吉台地下壕保存の会」は、例年同様、6月に『横浜川崎平和のための戦争展97』を川崎市と川崎市教育委員会の後援人補助金を得て開催するとともに、5月の『97平和のための戦争展』や8月の『97平和のための戦争展かながわ』にも参加し、日本ならびに世界の平和を願って活動していました。これらの様子は、朝日新聞や神奈川新聞などマスコミでも報道されました。現在、「保存の会」は、個人会員、団体会員を含め約600名で運営しております。運営委員会4回、幹事会8回開催し、会報は4回発行しました。また『太平洋戦争と慶應義塾』を発行しました。地下壕見学会は30回におよび、約750名の人々を案内しました。

こうした活動にもかかわらず行政の動きは鈍く、まだまだ私たちの運動は必要です。日吉台地下壕に関して、神奈川新聞によると横浜市教育委員会の文化財課は、①どのような活用、市民への還元ができるのか疑問がある、②価値を裏打ちする資料が乏しい、③安全性に疑問があるーといった問題を指摘しています。私たちは、これらの指摘に対して、更に詳しい調査・研究をしながら、反論し答えていかなければなりません。市教育委員会は、1998年度に行なわれる文化庁の近現代遺産調査で、横浜市の候補の一つとして地下壕をリストアップする予定だが、仮に文化遺産に指定されるとても2004年以降になる見込みだといっています。私たちはさらに一層、地下壕の保存についての実績づくりの活動を重ねる必要があります。

以上

1997年度決算報告

(単位は円)

	1997年度予算	1997年度決算	備考
収入の部			
会費	275000	484000	328名、5団体
カンパ	0	220	
事業益	0	328134	本、冊子、絵葉書等
雑費	0	3900	利息等
繰越金	590855	590855	
合計	865855	1407109	
支出の部			
会議費	80000	19056	各種会合費
事務費	30000	21007	事務用品費
印刷費	150000	28170	会報等
通信費	350000	185890	会報郵送代等
資料費	50000	0	書籍等々
謝礼	50000	21986	講演・調査等
交通費	100000	116610	交流会・賛同金・調査等
予備費	55855	420000	本の発行代金
合計	865855	812719	
差引残高	0	594390	

以上の通り報告します。日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印
 この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

1998年4月18日

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

1998年度予算

(単位は円)

収入の部		支出の部	
会費	338000	328人×1000円	会議費 50000 各種会合費
		5団体×2000円	事務費 50000 事務用品等
カンパ	0		印刷費 100000 会報等
事業益	0		通信費 200000 会報郵送費等
雑収益	0		資料費 50000 書籍等
繰越金	594390		謝礼 50000 講演、調査等
合計	932390		交通費 200000 交流会、調査等
			予備費 232390
		合計	932390

[補足説明] 収入の会費収入は、1997年度の会費納入者が約328名、団体が5団体なので、

1000円×328名+2000円×5団体=338000円とした。

1998年度活動方針

昨年度は、日吉台地下壕に関わる民間の土地が、遺産相続のためマンション業者に売却されました。幸いにして地下壕を避けて売却していただきました。今年になって、また別の土地がやはり遺産相続のため不動産業者に売却され、開発されようとしています。このままだと、貴重な縁とともに貴重な遺跡もなくなっていく運命にあります。行政のほうも、史跡として保存したい意志を持っていても、不景気が続き国も県や市も深刻な税収不足で、文化財関係に振り向けられる財源も限られており難しい状況にあります。

私たちは、昨年度に引き続き、絶えず横浜市や神奈川県並びに文化庁、慶應義塾及び地域住民に、日吉台地下壕の保存を訴えると共に、連絡を取り合い、一刻も速く保存が決まるよう活動を推進していかなければなりません。また県内、国内の文化財関係者や戦争遺跡に関わる市民団体とも連絡を取り合いながら、力を合わせて保存運動を盛り上げていく必要があります。

そのため、私たちは下記の運動を進めます。

- ①慶應義塾、地域の人々と日吉台地下壕の保存についての話し合いを深め、史跡として保存されるように横浜市や神奈川県、文化庁など関係当局に働きかけていく。
- ②学習会・見学会・シンポジウム・平和のための戦争展などを開催し、日吉台地下壕の保存の必要性をアピールし、世論を喚起する。
- ③『戦争遺跡保存ネットワーク』のような戦跡の保存をめざす全国の市民団体と積極的に交流し、共に戦争遺跡の保存運動を盛り上げていく。
- ④日吉台地下壕に関する調査・研究ならびに資料・遺品の収集を進め、史跡としての意義や価値の評価を高めるように努力する。

以上のような活動を通して、日吉台地下壕の整備・保存並びに資料館建設の実現にむけて努力していきます。会員の皆様のなお一層のご協力と、活動へのご参加をお願い致します。

以上

連合艦隊司令部跡日吉台地下壕の保存をすすめる会会則

- 第1条 (名称)** この会は「連合艦隊司令部跡日吉台地下壕の保存をすすめる会（略称：日吉台地下壕保存の会）」という。
- 第2条 (目的)** この会は次のことを目的とする。
1. 日吉台地下壕を平和記念の史跡として保存するための運動をすすめる。
 2. 日吉台地下壕に関する調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようする。
 4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館（仮称）」を建設する運動をすすめる。
- 第3条 (会員)** この会は会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体により構成される。
- 第4条 (事業)** この会は次の事業を行なう。
1. 日吉台地下壕の保存に関する資料、パンフレットなどを作成し普及する。
 2. 日吉台地下壕の調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕の見学案内、学習会、講演会、シンポジウムなどを行なう。
 4. 日吉台地下壕の保存および「平和記念資料館（仮称）」の建設について関係諸機関に働きかける。
 5. その他、会の目的達成のために必要な事業を行なう。
- 第5条 (運営)** この会は運営委員（10名前後）によって構成される運営委員会によって運営される。運営委員は立候補し、総会において承認を得る。
- 第6条 (組織)** 運営委員会から会長及び副会長を選出し、総会に報告し承認を得る。会長（1名）は、会を代表し、運営委員会を統括し、総会および運営委員会を招集する。副会長（若干名）は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第7条 (事務局)** 運営委員会には事務局をおく。事務局は書記と会計で構成される。その細則は別に定める。
- 第8条 (会計監査)** この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第9条 (総会)** 総会は年に1回開き、活動報告および決算の承認、活動方針および予算の承認、運営委員の選出、会長および副会長の承認、その他必要な事項について決議する。必要に応じて臨時総会を開くことができる。
- 第10条 (会費)** この会の経費は会費とその他の収入によってまかなわれる。会費は年間で、個人は1口1000円、高校生以下1口500円、団体は1口2000円で、1口以上とする。
- 第11条 (顧問)** この会には運営委員会の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は運営委員会の諮問に応じて必要な助言を行なう。
- 第12条 (付則)** この会則は、1989年4月8日に成立し施行される。
この会則は、1990年4月7日に改正され施行される。
この会則は、1998年4月25日に改正され施行される。

連載

田畠

当時の関係者の

思い出話
24

終戰前後

地元の方々に伺います。

卷之三

終戦の時、海軍の人が右往左往していた。缶詰など隠しながら持ち帰った。伊東三郎第三〇一〇設営隊長は戦犯になるのではないかと心配していた。

海軍が引上げた後、近所の人が壕の中に入つて、机や椅子などあるものみな、それぞれ家に運んでいた。

米軍の進駐がはじまり、慶應や岡本工業（現ユニー）、航空研究所（現矢上の警察学校）にやって来た。

日吉駅周辺は、全く基地の街のようであった。米軍相手

のパンパンが大勢たむろして
いた。パンパンと米兵が肩を
組んで歩いているのは日常茶
飯事であつた。我が家の裏山
にもパンパンがいた。娘のい
る家には、米兵が必ず何かを
持つてよく話にきた。娘二人
がパンパンになり、親は米軍
の物資を横流しをして贅沢し
ていた家もあつた。また米兵
の衣類をクリーニングしてい
て、いい仲になり米国に行つ
た人もいた。みんな食べて生
きていくのに精一杯の時代で
あつた。

米軍が慶心に進駐してきた時、地下壕の出入口から少し入った所を爆破した。日本兵が壕から出てきて襲うかも知れないし出入口を塞ぐためで

あつたという。

終戦後、マッカーサーが来る時、不逞分子がいて騒ぎを起こすとまずいので、大隊全部憲兵になつて、護衛した。

★A2氏・宮前
終戦は勝浦で迎えた。昭和
二〇年八月二三日に帰つてき
た。当時は上等兵曹であつた。

米軍が廻廊に進駐したが時々、米軍人が家の中に入つてきて怖かつた。

私は食品や炭などの配給品を取扱つていたが、米軍人が進駐軍の品物と店の品物を取替えろと言つて來たことがあ

つた。

米兵相手の売春婦（ハンバーン）が町に部屋を借りて商売をしていた。また、男も進駐軍に勤めて、油や食糧を譲り受け、闇で売つて儲けた人や、米軍のラジオの部品を取扱つたり、米軍相手にクリーニング屋を開いたりしてボロ儲けをした人が多くいた。

或いは、大地主でも土地を切り売りして浪費し、没落していく人もいるかと思えば、土地を上手に動かして儲け、のし上がつて来た土建屋さんがいたりした。

★石森一成氏

★石森一成氏・三木組関係者 我が家の隣りには韓国人の飯場があり、一五〇人位の人がいた。戦後これらの人には、本国に帰つた人もいるが、川崎の木月・加瀬や横浜の綱島に残つてゐる人も多いのではないか。